



湯浅美和子の市議会報告

2008年 第4回 定例会
11/27~12/12

市民ネットワーク 街づくり通信

No.61

発行：市民ネットワーク
編集：市民ネットワークみはま 〒261-0004 千葉市美浜区高洲3-11-3並木ビル2F TEL・FAX 278-5005

ホームページ <http://www.chibanet.jp/mihama/> 〈E-mail〉 mihama@chibanet.jp

市民の声を政策提案に 12月議会質問から 市議会議員 湯浅美和子

◆成年後見制度をもっと身近に

私たちの周りでも、高齢者の悪質商法被害を聞きます。認知症が進み、判断能力が衰えたら、身体が思うように動かず、介護サービスを利用することになった。これ、まさしく成年後見の問題。「措置から契約」となった福祉の中で、認知症・知的障害・精神障害など何らかの障害によって自己決定できない人たちが、不利な契約を結ばされることのないよう、一定の決められた人（後見人）が本人の判断能力を補い、支援する制度です。



国の推計からみた千葉市の認知症高齢者数は約12400人。しかし千葉市の成年後見の申し立て実績は、07年度268件と、周知が進んでいるとは決して言えず、また身寄りのない方の制度利用を可能にする「市長による成年後見の申し立て」も、千葉市では十分な活用ができていません。制度のパワーアップのた

め「成年後見センター」の整備を求めました。

◆今後の分別収集体制

平成22年度よりペットボトル以外のプラスチック製容器包装の分別収集が実施されます。それに伴う莫大な経費を抑えるためには、効果的な収集方法やゴミの発生抑制が大切です。レジ袋の有料化なども視野に入れることを提案しました。

◆学校における化学物質対策

「化学物質過敏症」をご存知でしょうか。まだ病気としてきちんと認識されていないため、「本人の気分のせい」と思われることもあり、健康状態の辛さと社会からの差別、という二重の苦しみに悩んでいる患者さんも多くおられます。みはま事務所近所に住む患者さんからの相談を受け、千葉市に農薬をはじめとする化学物質対策の充実を促していますが、今回は学校における対策として「シックスクールマニュアル」の

今年冬は何か?!

年末年始「年越し派遣村」の様子が連日報道されていました。世界的な規模で広がる100年に一度の経済危機は、千葉市へも確実に波及してきます。市民ネットワークでも「年末年始の相談窓口の設置、宿泊先の確保、雇用の場の確保」などを求める緊急要請を千葉市に提出しました。市は年末に「緊急経済・生活対策本部」を設置し、22項目にわたる取り組みを実施するとしました。幸い相談件数は少なかったようです。今後離職者等を対象にした臨時職員雇用事業も実施されます。

しかし、これで終わりではありません。派遣労働の問題など、法改正をしっかりとすることや社会的なセーフティネットの拡充などはもちろんですが、それだけではなく、どうすれば地域にお金が回るようになるのか、私たちも考えねばならない時です。

非正規労働者等の雇用継続のため、労働時間短縮等によるワークシェアリングを受けいれる環境づくりや、金融経済の中のマネーゲームとはちがう投資先として、地域課題に真剣に取り組むNPOや市民事業をしっかりと育てるなど、やるべきことは山ほどあります。

※みはまネットワークではホームレス支援NPO「もやい」へカンパ、山合労働者へ衣料・米・カンパを送りました。

2面からつづ